

NEWS & TOPICS

農業大学校便り

受験生の皆さんへ。

和歌山県農業大学校の推薦入学試験の受付が近づきました。



「県内に住所があり、高校を来年度の3月に卒業する皆さん」を対象とします。応募期間は10月19日(金)から11月2日(金)まで。試験は11月9日(金)に実施します。試験内容は作文と一般教養、そして面接です。なお、合格発表は11月11日(火)です。

和農業大学校は「希望入寮制」に移行します。

前号でも掲載しましたが、全寮制となっていた農業大学校は来年度から通学も可能な希望入寮制となります。より身近に農業に関する学習・実践ができますので、農業に興味・関心がある多くの皆さんが本校に入学してくれることを期待しています。



農業を通じて絆を深めよう。

作業めぐり 9月の巻

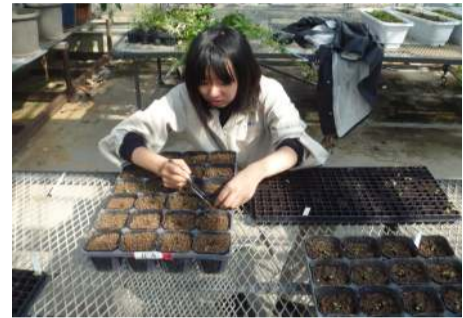


着色基準をクリアした実から収穫。



黄色に寄ってくる性質を利用します。

残暑もようやく和らぎ始めた9月のある日。野菜コースでは水耕温室に定植したトマトのコナジラミ予防のためラ/テープを設置(写真右上)。花きコースではパンジーの鉢上げ、セルトレイからポットに植え替えました(写真右下)。また、果樹コースではいよいよカキ「刀根」の収穫が始まり、秋の装いが深まってきます(写真左)。



根を傷めないよう、丁寧に。

シリーズ「今日のお昼ご飯」(第22回)



この日は秋の味覚の王様「松茸」、その松茸ごはんを中心にサンマの塩焼き、そしてきのこ汁と秋を感じる豪華ラインアップ。脇に控えるのはかき揚げや山芋とイカの酢味噌和え、そしてデザートにパイナップルがつけました。今日もごちそうさまでした!!

「糖度測定」にチャレンジ、紀央館高校生



9月19日紀央館高校で1年生を対象にキャリアガイダンスが開催されました。農大からは「果実の糖度測定」と題して、農大で収穫したブドウやナシ、カキの糖度を測ってもらい、それぞれ比較しました。計測後はみんなで試食。「光の屈折」を利用した屈折糖度計のことわかったかな?

実物診断に挑戦



前期テストが9月10～14日にわたって行われました。1・2年生ともに最終日程は植物体や病害虫、生産資材の名称を答える実物診断です。事前に果樹・野菜・花き・機械の各分野から60品が展示されていましたが、テストでは1分野5門を1分30秒で解答しなければなりません。記憶力と時間との勝負です。

環境保全型農業栽培技術現地研修会に参加。

町内で行われた上記研修会に果樹コースの2年生3名が参加しました。見学は黄色蛍光灯を用いて夜蛾類の光防除技術を実践しているスモモ農家や、ほかし肥料を中心に有機配合肥料を加えた施肥管理を行っているカキ農家など、先進的な栽培方法や創意工夫をこらした農業経営を見学することができました。



「いらっしゃいませ!!」和農市。

夏休み明けとともに和農市が再開しました。しかし、農産物の端境期に当たり、多くの品物が並べられるのはもう少し暑さが収まってからになりそうです。それでも熱心なお客さんが開店前から集まり、品定めを行っていました。

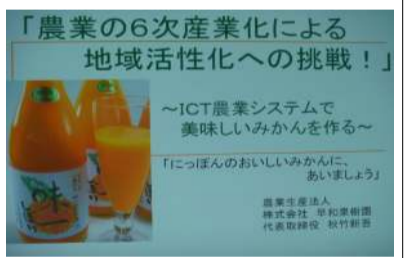


味一ミカンの生産から加工へ 早和果樹園秋竹社長を迎えて。



共同選果を足がかりに、県内でいち早く農業生産法人化。

公開講座は味一ミカンの生産・出荷、更に加工・販売を手掛けている、(株)早和果樹園の秋竹社長を迎えました。6次産業化と生産法人化をいち早く導入した経緯や、生産の拡大やシステム経営への移行などを図っている状況を講演していただきました。



県内でもこうした生産者のこだわり商品が増えています。

第4回はトラクタの運転と、ブドウの収穫を行いました。



閲覧は「和歌山県」のホームページから「インターネット放送局」→「県広報番組」→「9月2日」をクリックして下さい。



「オープンキャンパス」ホームページで放映中

8月24日の前回はテレビ和歌山のスタッフが来校、「きのくに21」の収録が行われました。そして、第5回となる9月23日にはなんと9名が参加してくれました。野菜コースはシタスの定植からポツポツ作りに変更。花きコースではフラワーアレンジを実施しました。次回10月21日は最後のオープンキャンパスとなります。



爆裂種という種類のトウモロコシを加熱します。



専修学校

和歌山県農業大学校

〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降422
TEL 0736-22-2203 FAX 0736-22-7402
HPアドレス <http://www.ag-wakayama.ac.jp/>
メールアドレス wa_noudai@ag-wakayama.ac.jp

第43号
平成24年
9月
発行
和歌山県
農業大学校